

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 2020

| | | | |
|---------|----------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 2672100027 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 北星会 | | |
| 事業所名 | グループホーム天橋の家 コーストユニット | | |
| 所在地 | 京都府宮津市字宮村1277番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年2月22日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 野の花 | | |
| 所在地 | 京都市左京区南禅寺下河原町1番地 | | |
| 訪問調査日 | 2021年3月18日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街に立地しており駅からも近く近隣にはスーパーマーケット、喫茶店、医院などがあります。当事業所は平成18年より特養・デイサービスと併設した2階にありましたが、令和2年12月より新施設を建設し、単独の建物で2ユニット18名定員と新しく生まれ変わりました。昨年からのコロナウイルス感染拡大に伴い、例年通りの地域住民との交流、近隣の保育所や地元老人会との交流、ボランティアや実習生の受け入れも限られたものとはなっておりますが、コロナウイルス終息となれば今までの実績を基に、今まで以上の取り組みを展開できるよう準備しております。また食事については、以前より行っていた事業所内調理を、令和2年9月より同一法人施設である老人保健施設なごさ苑より配達食とし、管理栄養士のもと管理された食事を月曜から土曜の昼食・夕食と提供させていただいております。ただし調理しての楽しみを継続するために、日曜日は昼食夕食共に利用者様の意見を聞きながら事業所調理をしています。その他、生活の中で無理のない範囲でできる限りご利用者が自分で行なえるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR宮津駅近くの住宅街にある1ユニットのグループホーム、開設満15年になる。特養、デイサービス等を併設している。昨年単独の建物を新築、グループホームを2ユニットにしている。種々の事業所での介護職経験の長い職員が多く、利用者が2倍になったホームの運営と介護にあたっている。特養とは異なるグループホームのきめ細かな介護に情熱をもやす職員、父親が介護事業所で亡くなった経験から家族の立場に思いを寄せる職員等、優れた職員が多い。その結果、排泄の支援が良く、自立している利用者が多い。花を刺繍したり、編み物をしたり、コロナ禍で外出が一切できないではなく、人通りの少ない時間帯に少数の利用者を玄関先に連れ出し、みんなで「う、寒う」と。地面に積もっている雪を玉にしてホームの中にいる利用者に見せる、雪を手を持った利用者は「冷たいな。久しぶりに雪を見た」と嬉しそうに笑っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運営方針を事務所入り口、事務所内に掲示し、職員間で共有して実践につなげている。また、ホームページ、パンフレットにも掲載している。 | グループホームの理念は「①第二の我が家を目指す②地域とのつながりを大切に③思いやりの気持を大切に」であり、開設時に職員の話し合いにより策定している。広報誌に掲載、利用者、家族、地域の人に周知を図っている。スタッフ室に掲示、職員は認識している。理念の実践として職員は利用者には常に家族のような声掛けや対応を心がけ、利用者の笑顔が絶えないように家族のような対話をしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 例年であれば併設しているデイサービスなどのボランティア行事への参加や近隣の保育所との交流、ボランティア、地元老人会などとの交流の機会を設けているが昨年から新型コロナウイルス流行に伴い現在は行えていない。 | 利用者はふだんホームの近くを散歩、山や海の自然を満喫している。近くにあるスーパー等利用している。自治会に加入、老人会、近くの保育所や幼稚園等と交流している。地域の夏祭りに参加、盆踊りを踊っている。地域貢献としては認知症あんしんサポート窓口を開設、相談に対応、宮津小学校で認知症サポーター養成講座を実施している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症あんしんサポート相談窓口を設置して、相談して頂ける体制を取っている。また市からの依頼を受け、市内の小学生を対象とした認知症サポート養成講座を実施して地域住民への認知症の理解に努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 例年であれば、自治会長、民生委員、市職員、介護相談員、入居者の家族等の参加を得て2ヶ月に1回開催しているが、昨年から新型コロナウイルス流行に伴い現在は書面での開催となっている。 | 家族、自治会会長、民生委員、元介護相談員、宮津市が委員となり、隔月に開催、議事録を残している。ホームから利用者状況、事故・ヒヤリハット、行事、職員研修等を報告、意見交換している。今年度は報告内容を資料として委員に送付、意見は書面でもらっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 管理者、主任が中心となり、直接、市役所に出向いたり、電話で相談する等している。 | 宮津市とは必要な報告や相談を欠かさず、連携をとっている。地域ケア会議に参加、情報交換している。市の介護相談員を受け入れていたが今年度は廃止になっている。認知症ネットワークに協力している。市のグループホームは2件、お互いに情報交換や学びをしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中は防犯的な観点での玄関口の施錠以外、ユニット間は鍵をかけない取り組みをしている。その他、言葉使いも抑制にならないよう心掛けている。また、毎月の会議内で身体拘束委員会として、確認及び半年に一度、内部研修を実施し外部研修会へも積極的に参加している。 | 身体拘束をテーマにして職員研修を年4回実施、職員は身体拘束11項目、やむを得ず拘束する場合の3要件、スピーチロック等について認識している。センサー使用の利用者が1人、家族同意をとっている。玄関ドアは日中、夜間とも施錠し、カードキイとなっている。非常口、ユニットドア等は施錠していない。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 宮津市主催の入所等介護施設職員(一般介護職員)対象 虐待防止研修の資料を基に、職員間で内部研修を行った。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 昨年からのコロナウイルス流行に伴い、研修会の開催及び参加は出来ていない。過去の資料を基に職員間では情報共有している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 現在はコロナウイルス流行期の為、自粛して頂いているが、希望があれば施設の見学、概要説明を行った上で申し込みして頂いている。契約時には時間をかけて説明して理解を得ている(特に利用料金、退居に関して)。また面会時や家族参加の行事の際に質問、疑問に答えるようにして | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 今年度については家族と共に食事等をする機会が出来なかったが、担当職員の電話などにより、家族の要望や利用者の様子をお伝えするようにしている。 | 家族の面会は毎月2回から2か月に1回くらいである。今年度はオンライン面会、家族から「他の方法でも面会したい」と言われ、対応している。毎年2回、家族を食事会に招待、ほとんどの家族が参加、交流している。利用者の担当職員が年2回利用者の様子を書いた個別の便りに写真を同封して送付している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月開催されている事業所内の会議や年2回行う職員面接の中で主任を通して聞く機会を設けていると共に要望があれば職員と個別面談をし、直接聞く機会を設けた。 | 主任が参加する業務運営会議で法人と施設間の情報交換等をしている。主任は年2回職員と面談、法人、施設、グループホームについての意見、希望する研修等を聴取、同時に職員自身の自己評価について話し合っている。法人の研修は新人、中堅、指導職を対象に基本的なテーマを含めて実施、外部研修は府老協主催の研修に参加している。グループホーム会議は全職員参加で毎月実施、法人の情報伝達、事業計画や運営の点検、行事の相談、ケースカンファレンスをしている。職員は利用者の担当と物品、広報、身体拘束等の担当により役割分担している。宮津市内のグループホームと交流、学びをしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回行う職員面接の中で主任を通して聞く機会を設けていると共に要望があれば職員と個別面談をし、直接聞く機会を設けた。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個人別研修希望調書を取り、職員のモチベーションの向上に努めるようにしている。感染症対策の研修については事業所内会議の場を活用している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 現在はコロナウイルスの流行期の為中止となっているが、社会福祉法人が運営するグループホームが加盟する協議会に入り、情報共有や研修会への参加、また近隣のグループホームとの情報交換等、サービスの質の向上に努めている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 面接時に話を聞くがそれだけでは分からないこともあり、入居されてからも、その都度、関わりが持てるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|-----------------------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 申込時、面接時、入居時に話を聞いている。本人が入居されてからも家族には小まめに連絡をして様子を伝えている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族より話を聞き、希望、必要に応じたサービスを提供している。理容、美容の希望があれば、外部の理美容サービスに来所して頂き利用している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来る限りご利用者の方と共に行動し、良い関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 現在はコロナ禍である為、面会方法に制限はあるが、家族には出来る限り面会をお願いしている。また受診については必要に応じて付き添いをお願いしており、共に本人を支える関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 自宅を見にいたり、生まれ育った所や懐かしい場所へドライブに出掛ける等、馴染みの場所へ行く機会を設けている。 | 利用者の生まれた家や以前に住んでいた家に、ドライブで出かけている。 | 長い人生を送ってきた利用者は今グループホームで人生の最後の日々を過ごしている。子どものころ、学校時代、仕事先、近所付き合いしていた人、仲良くしていた友達、しばらく会っていないのでどうしているか、会ってみたい。会えなくても電話等で話したい。手紙の交換をしたい。こういう支援をすること、生まれた家や住んでいた家だけでなく、仕事の場所、いつも花見に行っていた所、よく見た祭り等、もう一度行ってみたい思い出の場所への支援をすること、以上の2点が求められる。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ホール(共有スペース)で気の合う方同士が、それぞれの場所でお話をしながら過ごしているが日々の中で居室などで一人で過ごす時間も大切にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居が決定した後も本人、家族に対して今後についての相談や支援を行っている。また退居後も、入所施設や、ご家族から現在の様子を聞く機会を持ち、再入居の希望などを伺い、積極的に受け入れも実施している | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | カンファレンス、ミーティングで本人を中心に考え、希望、意向の把握に努めている。希望や意向の把握の難しい方は職員が本人の立場になって考えている。 | 契約時に計画作成担当者が利用者、家族に面談、グループホームの説明をすると共に利用者の介護、医療の情報を収集、同時に利用者、家族のグループホームへの希望を聴取している。「やっぱり家がええ」「できることがあったらいうてや」等、ありのままの利用者の思いを記録している。宮津生まれ、5人兄弟姉妹、3人兄弟姉妹、農家、電器屋等、生家の事、銀行勤務等現役の時の仕事、夫は漁師、子どもは息子3人、1男1女等結婚生活、バスケットボール、ママさんバレー、フラダンス等の趣味等、利用者の生活歴の情報を記録、職員が共有している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人はもちろん、家族、在宅ケアマネジャー、以前の利用施設等から情報を得ている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 身体状況については毎朝と夕方の入浴時、バイタル測定で把握し1日の過ごし方等はケア記録、ミーティングで把握している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や定期的に行なっているケース会議にて家族から意向を聞き、介護計画書を作成している。カンファレンス、ミーティングにて職員間で情報を共有し、計画書は3ヶ月毎にモニタリングを行っている。 | カンファレンスで利用者のアセスメントをし、計画作成担当者が作成した介護計画について検討している。介護計画は暮らしの楽しみがない利用者やある利用者も「レク・行事」であり、その利用者固有の楽しみはない。認知症周辺症状への対応の項目はない。サービス担当者会議は職員のみ参加である。介護記録は生活のデータと利用者の様子を書き、介護計画の実施記録は「実施した」の内容のみで、介護計画の評価につながる記録ではない。モニタリングはカンファレンスで実施、短期目標の評価であり、介護計画の評価になっていない。 | 介護計画はどんな重度な利用者にも暮らしでその人がしたい事、好きな事の項目、認知症周辺症状への対応の項目、以上2点の項目を入れること、サービス担当者会議は職員だけでなく利用者、家族、医師・看護師等種々の人の参加、あるいは意見聴取のもと開催すること、介護計画の実施記録は計画を実施した記録だけでなく、実施できなかった時の利用者の様子や状態、実施できない要因等を書くこと、モニタリングは短期目標の評価ではなく介護計画の評価をすること、以上の4点が求められる。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | パソコンに個別に記録して情報を共有している。また夜勤者は引継ぎ表を作成して夜間帯の様子を日勤者へ伝達している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時の状況に応じて職員間で相談し対応している。また医療面に関しては併設施設の看護職員の協力やかかりつけ医に往診していただいている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 現在はコロナウイルス流行期の為中止しているが、ボランティアの受入を行い、お話相手、歌、手作り雑巾等、個々に合った支援を行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居されてからも基本的には在宅時のかかりつけ医を継続していただいている。往診を利用されている方が多く、往診時に状況をかかりつけ医に伝え、情報の共有に努めている | ほとんどの利用者はホームの協力医である医師が定期的に往診にくるので受診している。1人の利用者は入居前のかかりつけ医に家族同行で受診し、利用者のグループホームでの様子は状況報告書を作成、医師に伝えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設事業所の看護職員、また各主治医との連携を取っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中は面会に行き様子を把握している。また退院に向けてできる限り、家族にも出席してもらいカンファレンスを行い、行えない場合には情報提供をお願いし状態の把握に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 現時点において看取りに実績はないが、医療行為が必要になった場合は主治医を含め検討会議を持ち、状況を確認した上で家族と相談しながら方向性を考えるようにしている。 | 利用者の重度化や終末期の対応について、グループホームとしての基本方針は「看取りに対応しない」である。文書にしていない。契約時に利用者、家族の意向は聞いていない。 | 利用者の重度化や終末期の対応について、グループホームとしての基本方針を文書にすること、利用者や家族の意向を聴取すること、以上の2点が求められる。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時等にはマニュアルに従い対応している。また職員は数年に一度、普通救命講習を受講している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 併設事業所と共に年2回、昼夜を想定しての火災避難訓練、水害避難訓練を行っている。その他、災害時用の非常食を常備している。事務所内にはハザードマップを掲示し、確認している。 | 火災に対する避難訓練は消防署の協力のもと、年2回実施している。夜間帯の訓練はしていない。地震は年1回の宮津市のシェイクアウト訓練に参加している。ホームは土砂災害警戒区域にあり屋内の高い位置に移動する訓練をしている。備蓄は食料のみ準備している。ハザードマップは掲示していない。災害時における法人内相互協力体制の規定はない。災害時に地域の協力は依頼はしていない。 | 避難訓練は夜間帯についても実施すること、備蓄は食料だけでなく、救急医薬品、防寒具、日用品等も準備すること、ハザードマップは常に最新の情報を掲示し危険個所を認識しておくこと、災害時における法人内相互協力規定を策定すること、災害時に地域の人の協力を得られるように依頼すること、以上の5点が求められる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 自室のドアには鍵が付いている。その他、声掛けもプライバシーを損ねないような声掛けをしている。 | 利用者への声掛けや対応についての基本方針は「人生の大先輩であることを忘れず、尊厳を守り、根気よく丁寧にゆっくり対応する」であり職員研修している。職員はお互いに注意しあっている。職員会議や職員同士の申し送りは利用者のいない所、小声で行う等、利用者のプライバシーに配慮している。利用者は自分のペースで生活しており早寝早起きや遅寝遅起きの人がいる。飲み物はお茶、牛乳、コーヒー、ポカリスエット等を準備、利用者が選んでいる。利用者は着る服を選び毎朝化粧している。カットは訪問美容を利用しており、美容師に自分好みの髪型やカラーを注文している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常の会話の中から希望などを聞いている。また、日々の生活の中で可能な限り自己決定して頂く場面を作り支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 各々、テレビを見たり、雑誌を読んだりして一人一人のペースで過ごされている。また夜間テレビを観たい方のお部屋も遮光し、他利用者への妨げにならないよう工夫している。日々の中で話を聞く機会、共に過ごす時間を大切にしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問理美容で希望のカットを行なっている。また、個人で口紅、ファンデーション、好みのシャンプー等を持ち、各々身だしなみができる様に支援している。衣類の着こなしの確認、声掛けも行なっている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 令和2年9月より昼食夕食共に同一法人施設からの配達食になった。日曜日については好きなものを自施設にて調理する機会を残し、レクリエーション的に食事の準備を楽しんでいる。 | 日曜日以外は法人の管理栄養士がカロリー値、栄養バランス点検済みの献立を調理したものを利用している。高齢者の食べなれた和食であり旬の食材が使われ季節感があり利用者に好評である。管理栄養士には利用者の食事の相談もしている。日曜日は職員が利用者の声を聴きながら献立を立て利用者と一緒に作っている。誕生日には利用者のリクエスト献立にしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 令和2年9月より、昼食夕食共に同一法人施設からの配達食になり、管理栄養士の計画した食事内容を提供している。また水分補給については定期的に機会を作り摂取して頂いている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、歯磨きと番茶でうがいを行っている。また必要に応じて就寝時には義歯洗浄を行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 多くのご利用者が自立されているが、1人ひとりの排泄パターンやサインを見逃さないようにし引き継ぎ等で情報を共有している。また必要に応じて、かかりつけ医にも状況を報告している。 | 尿意がありトイレの場所を知っていて自身で処理できると、排泄の自立をしている利用者は14人、あとの利用者はリハパンとパット使用で、排泄パターンを把握している職員がトイレ誘導している。失禁が減った利用者がある。食材、水分、運動で自然排便を支援しており、5人の利用者が頓用で下剤を服用している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日ヤクルトを摂取したり朝には牛乳、バナナ、ヨーグルトを摂取している。その他、体操やレクリエーションを行い、適度に体を動かす機会を設けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週2回のペースで入浴していただいている。順番は出来る限り希望を聞き、拒否のある方へは、介助職員を変更したり、様子を見ながら声掛けを行っている。また希望により同性介助も行なっている。 | 毎週2回の入浴を支援している。入りたい曜日を希望する利用者に対応している。入浴拒否の利用者が1人、最も長くて10日入らない時がある。季節にはゆず湯を楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 休息は本人の希望で自室やホールのソファでくつろいで頂いている。入居者の方からは「部屋に戻ってもええか」と言う言葉も聞かれ、その時の状況に応じて対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬資料は個別にファイルに綴じて保管し必要に応じて確認している。服薬の準備については職員2名で準備し他の職員1名が確認する3名体制で行っている。下剤についてはかかりつけ医の了解を得て、様子をみながら調整を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 今年度については外出などを積極的には行えなかったが、新施設開設に伴い、季節に合った行事、活動、地域との関りを計画的に行っていく。また天気の良い日は外へ行きたいと言われる方もあり、散歩をするなどの気分転換を図っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 今年度については外出などを積極的には行えなかったが、春、秋には遠足に行き四季を楽しむ機会を設けている。また散歩、ドライブ等の外出も行っている。 | グループホームを2ユニットにするための立替工事をしていた事とコロナ禍のため、今年度は外出はほとんどしていない。数回のドライブも車から降りていない。 | 認知症である利用者を屋内に閉じ込めておくことは妄想、幻覚、幻視、幻聴等の症状が表れ認知症の進行を早める。ホームとしての事情やコロナ禍があるとしても、少人数ずつ、短時間でも屋外に出る取り組みが求められる。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理については家族が行なっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば家族に電話していただいたり家族から掛けていただいている。また、家族から年賀状、ハガキが届く入居者の方もいる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールは大きな窓があり明るくゆったりと過ごせるスペースとなっている。所々にソファがありゆっくり座ったり畳の間で横になったりするスペースがある。また、季節を感じれるように花や季節の物(雛人形・クリスマスツリーなど)、ちぎり絵を飾っている。 | 新築された部屋で、居間兼食堂はゆったりと広く明るい。ラックに新聞や雑誌を入れ、利用者が読んでいる。棚にはパズルがあり、好きな利用者が楽しんでいる。部屋に飾られた胡蝶蘭やネコヤナギが柔らかい雰囲気をかもしている。壁にはフェルト人形で季節を表現した壁画を飾っている。壁画には七福神、お雛様、桜、こいのぼり等が描かれている。壁には利用者と職員が一緒に制作したちぎり絵を貼っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビ前や廊下にソファ、食事用の椅子があり個々に好きなところに座りゆっくり過ごしていただいている。また好きな事ができる様、本、新聞、パズルが置いてある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族と相談し以前、自宅で使用していたものを持って来て頂く様に工夫している。家族の写真やタンス、テレビ等々思い思いの品を持って来ていただいている。居室の出入口にはネームプレートを設置し飾り等も工夫している。 | 居室は洋間、エアコン、空気清浄機、ベッド、ナースコール、ハンガーラック、テレビ、筆筒等を設置している。利用者は寝具類、衣装ケース、洋服掛け、椅子等馴染みの家具や家族の写真、化粧品、塗り絵セット、刺繍セット、レターセット、日記等を持ち込み、自分の部屋としている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下は広く、段差もほとんどない為、老人車の方等も安心して生活していただける。またコールや手すり等も設置して安全面も配慮している。トイレには案内板を設置しご利用者の方に分かるようにしている。 | | |